

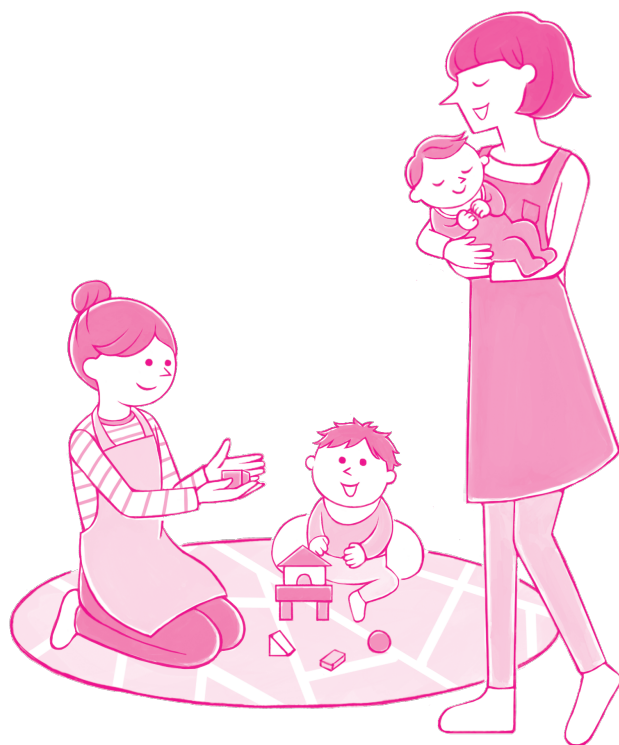
保育士等 キャリアアップ 研修テキスト

乳児保育



監修 秋田喜代美・馬場耕一郎

編集 阿部和子



中央法規

監修のことば

本テキストは、平成 29 年 4 月に厚生労働省から出された通知「保育士等キャリアアップ研修の実施について」（平成 29 年 4 月 1 日雇児保発 0401 第 1 号）により保育士等キャリアアップ研修を実施していただくにあたり、そのガイドラインの理念や考え方に基づき作成されたテキストになります。平成 28 年 12 月に保育士のキャリアパスに係る研修体系等の構築に関する調査研究協力者会議から出されました「調査研究協力者会議における議論の最終取りまとめ：保育士のキャリアパスに係る研修体系等の構築について」にその考え方は書かれています。

キャリアアップ研修のねらいは、保育士等がキャリアパスを見通し、保育所においてリーダー的職員を育成することにあります。つまり、保育所においてすでに一定以上の実践経験をおもちで、ミドルリーダーやリーダーとしての意識をもち、保育所の保育の質向上、職員の資質向上のキーパーソンとなる方、なろうとする方のための研修になります。したがって、テキストにおいても、これから保育士になっていかれる養成校でのテキストとは差別化を図っています。

第一には、基礎的な知識を伝達しスキルを習得することで、基本的に現場に行って教えてもらえばできるという段階の基礎知識のテキストではなく、そのような基本的な考え方や概念をもとにしながらも、「最新の動向を知る」ことや、基本の上により深くその知識を実践とつなげて意味づけ考えることができるためのテキストを企画段階で目指したものであるということです。保育士等の専門性は多様な事例を知ることによって、判断に基づく行動ができることにあります。したがってその「事例知識」を各園の実情を踏まえて共有できるテキストにするということが求められます。

第二には、リーダーは、自分で実践ができるというだけではなく、これまでの経験を踏まえて「この分野なら私が専門的にわかる」という得意や専門分野をもち、責任をもってほかの保育士等を指導できたり、組織、保育所全体をリードできるための実践的知識を伝えられるようにするということがあります。「議論の最終取りまとめ」においても「研修の実施にあたっては、講義形式のほか、演習やグループ討議等を組み合わせることにより、より円滑かつ主体的に受講者が知識や技能を修得できる。効果的な演習やグループ討議を行うため、各園の創意工夫や課題を持ち寄って、自園の保育内容と関連付けた研修内容とすること等が考えられる」と述べられています。つまり、自らの経験をなんとなくわかっ



ているだけではなく、説明できたり、そのポイントを意識化し言語化できることが大事になっています。

そこで、本テキストは、皆さんの経験や知識を書き込むことで完成するマイ・テキスト、各園の実情と一緒に研修を受けた人との事例をもとにして初めてできあがる私たちの（Our）テキストという、ワークブック的な演習課題を入れたテキストとなっています。皆さんが受講した研修の軌跡を通して語り合ったり考えたことの道筋をたどり、完成させ創り出すものとなっています。同時に、この考え方や知識だけは核にしながらかえてほしいということだけが記載されています。それに肉づけをするのは、研修に参加する皆さんとその場での講師の自律性にゆだねられる余地をつくっています。

第三には、本分野の研修を受けた後で振り返ったときに、こんなことを学んだよと自身の所属する保育所に持ち帰っていただくと同時に、ほかの保育士等と振り返ることができる、対話のきっかけとなる研修のアイデアになることも、テキストのなかに書き込まれることを願っています。

現在、「主体的・対話的で深い学び」が子どもたちに求められています、それは保育士自身も経験することが大切です。マイ・テキストとなったテキストを持ち帰り、それが一つのきっかけになって園内研修の一つの窓になる、自園だけではなく、他園から学ぶ事例もあるということが可能になるように企画をしました。

ですから、研修に参加して終わりではなく、学んだことが保育所で実際に活かされることで、保育の質の向上が図られることを願っています。どの保育所でも、現状認識の把握から始まり、当該分野に関してよりよい知恵を皆が共有でき、園において次のよりよい保育を創ろうとすることが、真にリーダーがリーダーとしてのはたらきをすることにつながると思います。

本テキストは、皆さんが主人公、そして出会った講師や研修をともに受ける人との得がたい経験が埋まって初めてつくられるテキストです。教科書というイメージとは異なりますが、誰もがどこでも使えることで、保育所の学びの軌跡となることを監修者として願っています。

秋田喜代美
馬場耕一郎

はじめに

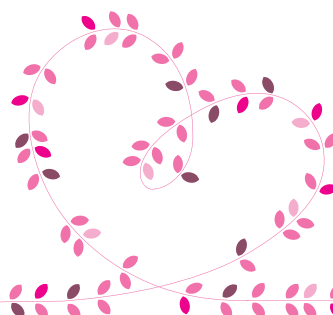
保育は何か特別のことをするというよりは、毎日当たり前に繰り返されているように見える具体的なやりとりが基本となります。繰り返される日常はマンネリ化しやすく、ときに流されやすくなりがちです。乳児（本書では特に断りがない場合は3歳未満児を指す）にとって、日々の繰り返しが発達のための経験として意味あるものになるためには、保育士等が、乳児がそこで経験し、学んでいることを意識することが特に重要になります。

保育士等は、乳児の育ちを支えるために、日常の乳児の姿をどのように理解すればよいのか。乳児の育ちに資する実践にするためには保育内容をどのように展開していけばよいのか。受講者の皆さんが一人ひとり、自らの意志を再確認し、その気概を継続しようとする契機となれば、本書の役割はおおよそ果たせると考えています。

そのために、第1章では、保育を広く社会のなかで、乳児保育に期待されていることなども踏まえて、乳児保育の役割や機能について考えます。第2章においては、保育所保育指針の3歳未満児の保育について、保育所保育の基本原則等と合わせて保育内容を理解することになります。第3章においては、第2章で示した保育の内容を具体的にどのように考え展開すればよいのかを事例をもとに考えます。第4章においては、日々の乳児と保育士等とのやり取りを豊かにする環境、また、乳児の健康で安全な環境について検討します。そして、第5章は、本書全体のまとめのような位置づけになります。保育は、保育士等の大人の都合だけではなく、乳児の主体性を軸に、組織的・計画的に行われることが必要になります。いわゆるPDCAサイクルを循環させることで、子どもの福祉の増進に最もふさわしい場とはどのような場であるのか。また、望ましい未来を作り出す力の基礎を培うために、乳児期ではどのように保育内容を実践すればよいのかを計画との関係で考えることとなります。

子どもや子育てを取り巻く環境が変化している近年において、保育所や保育士等に求められるニーズも多様化してきています。こうしたニーズに対応できるように、保育士等には一層の資質向上が求められており、本書がその資質向上の一助になれば幸いです。

阿部和子



受講にあたって

■本書の使い方

本書は「保育士等キャリアアップ研修の実施について」（平成 29 年 4 月 1 日雇児保発 0401 第 1 号）に定められた「保育士等キャリアアップ研修ガイドライン」の「分野別リーダー研修の内容」に準拠しています。

表 分野別リーダー研修の内容

分野	ねらい	内容	具体的な研修内容（例）
乳児保育 （主に 0 歳から 3 歳未満児向けの保育内容）	・ 乳児保育に関する理解を深め、適切な環境を構成し、個々の子どもの発達の状態に応じた保育を行う力を養い、他の保育士等に乳児保育に関する適切な助言及び指導ができるよう、実践的な能力を身に付ける。	○乳児保育の意義 ○乳児保育の環境 ○乳児への適切な関わり ○乳児の発達に応じた保育内容 ○乳児保育の指導計画、記録及び評価	・ 乳児保育の役割と機能 ・ 乳児保育の現状と課題 ・ 乳児保育における安全な環境 ・ 乳児保育における個々の発達を促す生活と遊びの環境 ・ 他職種との協働 ・ 乳児保育における配慮事項 ・ 乳児保育における保育者の関わり ・ 乳児保育における生活習慣の援助や関わり ・ 保育所保育指針について ・ 乳児の発達と保育内容 ・ 1 歳以上 3 歳未満児の発達と保育内容 ・ 全体的な計画に基づく指導計画の作成 ・ 観察を通しての記録及び評価 ・ 評価の理解及び取組

都道府県が実施主体となって行われる同研修での受講に使いやすいよう、各節の始まりと終わりには演習課題を設け、単なる知識の習得に終わらずに、学んだ内容を受講生が持ち帰り、ほかの保育士等に説明・研修できることを目指しています。ですから、研修を受講して終わりではなく、本テキストを「マイ・テキスト」として、園内研修等で活用してください。

①導入の演習

②講義

③まとめの演習

第1章 乳児保育の役割と機能

この節のねらい

- 乳児の成長・発達について乳児保育・3歳未満保育が果たす役割について理解する
- 乳児保育・3歳以上3歳未満保育の総合的役割について理解する
- 乳児保育・3歳以上3歳未満保育の機能について理解する

4月に7か月で入園したユウキくんは、あそびに誘われてもどうしても手を離れまい、机の上を向いてくれません。お兄ちゃんのコウキくんが入園後を振り返っていたため園内でもお兄ちゃんに誘われ、互を向く動きがでてしまったようです。園のおもちゃなどで遊んでも目は遠くを、あまり反応がありません。ユウキくんの様子になったA先生は指導計画を立てようとしています。あなたならどんな働きかけや保育の工夫を考えますか。

乳児保育がどんな役割を果たしているのか、またなぜ必要なのか、自分の考えを書き出し、話し合ってみましょう。

乳児保育の役割と機能

乳児保育の役割と機能

乳児保育の役割と機能

乳児保育の役割と機能

まとめの演習

まとめの演習

まとめの演習

まとめの演習

●現在の自分の知識や保育所の現状を把握します

●ほかの受講生の保育所との違いを認識します

●視点や知識を習得します

●リーダーとしての立ち位置、協働の仕方を学びます

●学んだことを振り返り、自分のものにします

●持ち帰って園内研修等で活用する演習も一部含まれます

開催者の準備

あると便利なもの

●ホワイトボード

●白紙、模造紙等（グループの数分）

●付箋（演習で使用）

●保育所保育指針（解説）

●マーカー

研修に持参していただく資料

各章の演習では、研修当日に受講生に持参していただく資料があります。本巻については以下のとおりです。

章・節	持ち物	備考
第3章第1節	登園から降園までの睡眠、食事、遊びにおける援助・配慮について、月齢別（4～6か月、9～12か月、13か月～18か月）に記入した日課表	
第4章第2節	勤務先の保育室などの環境の写真	
第5章	勤務先の全体的な計画及び指導計画（月間）、日誌、記録	

凡例

本書は原則的に、以下のとおり用語の統一をしています。

保育所、園、保育園➡保育所

保育者、保育士、保育士等➡保育士等

v

CONTENTS

監修のことば

はじめに

受講にあたって

第1章 乳児保育の意義

第1節 乳児保育の役割と機能……………002

演習1 演習2

保育と乳児保育の役割／乳児保育とは／子どもの成長・発達と乳児保育
の役割／乳児保育の機能

まとめの演習

第2節 乳児保育の現状と課題……………010

演習1 演習2

乳幼児の育ちの現状と子育て／乳児保育を取り巻く状況と課題

まとめの演習

第2章 乳児の発達に応じた保育内容

第1節 保育所保育指針について……………024

演習1 演習2

保育所保育指針の重要性／保育所保育指針の構造／乳児・1歳以上3歳
未満児の保育内容に関する改定のポイント

まとめの演習

第2節 乳児・1歳以上3歳未満児の発達と保育内容……………034

演習1 演習2

「第2章 保育の内容」における新指針での位置づけ／「第2章 保育の
内容」の構造／乳児（0歳児）の発達の姿と保育内容／1歳以上3歳未
満児の発達の姿と保育内容

まとめの演習

第3節 保育の方法——主体的存在としての乳児・1歳以上3 歳未満児……………047

演習1 演習2

乳児保育（0歳児）にみる子どもの主体性／1歳以上3歳未満児保育に
みる子どもの主体性

まとめの演習

第3章 乳児への適切なかかわり

第1節 乳児保育における配慮事項 056

演習1 演習2

乳児保育における乳児の「最善の利益」／ヒトから人へ、心地よい生活の積み重ねにより整う日課／学びの出発点としての日々の営み—乳児保育における養護と教育／主体的な経験を通した子どもの姿

まとめの演習

第2節 乳児保育における保育士等のかかわり 065

演習1 演習2

子どもを見る「まなざし」と子どもの行為の意味／子どものこだわりをとらえる大人の日線／二つの生活の場を生きる子どもへのかかわり／24時間を視野に入れた保育と子育て支援

まとめの演習

第3節 乳児保育における生活習慣の援助とかかわり 074

演習1 演習2

生活リズムが整うまでの道のり／睡眠発達の理解と保育士等のかかわり／食事の自立の過程と保育士等のかかわり／排泄の自立の過程と保育士等のかかわり／衣服の着脱の意義と保育士等のかかわり／清潔の意義と保育士等のかかわり／片づけの意義と保育士等のかかわり

まとめの演習

第4章 乳児保育の環境

第1節 乳児保育の基本となる環境 088

演習1 演習2

人格の基礎を育てる乳児期の環境／愛着関係と自己肯定感を育てる環境／信頼関係と保育形態／人的環境と物的環境の相互作用／保護者の働きを支える乳児保育の環境／保育士等と家庭の信頼関係

まとめの演習

第2節 乳児保育における安全な生活環境 094

演習1 演習2

乳児の安全を守る基準／安全に生活ができる室内の環境

まとめの演習

第3節 環境にかかわり、遊びを通して発達する力 101

演習 1 演習 2

身体的発達と環境／社会的発達と環境／精神的発達と環境

まとめの演習

第 4 節 他職種との協働 108

演習 1 演習 2

乳児保育の内容と環境／医療職との連携／栄養士・調理師との連携／地域の専門職との連携

まとめの演習

第 5 章 乳児保育の指導計画、記録および評価

第 1 節 全体的な計画に基づく指導計画の作成 116

演習 1 演習 2 演習 3

全体的な計画／全体的な計画に基づく指導計画／指導計画の作成手順／ねらいと内容／日課／保育士等の協力体制／家族との連携

まとめの演習

第 2 節 観察を通しての記録および評価 122

演習 1 演習 2

指導計画の展開／子どもの主体的な活動と保育士等の多様なかわり／観察することの重要性／日誌と記録の違い／評価／記録および評価の共有化

まとめの演習

第 3 節 評価の理解および取り組み 128

演習 1 演習 2 演習 3

保育士等の自己評価／自らの保育実践を振り返る視点／子どもの育ちをとらえる視点／保育士等の話し合い／保育カンファレンス／保育所の自己評価

まとめの演習

演習の進め方 135

より深い学びに向けて 142

受講の記録 143

監修・編集・執筆者一覧

第1章

乳児保育の意義



第 1 節 乳児保育の役割と機能

この節のねらい

- ・乳幼児の成長・発達において乳児保育・3歳未満児保育が果たす役割について理解する
- ・乳児保育・1歳以上3歳未満児保育の社会的役割について理解する
- ・乳児保育・1歳以上3歳未満児保育の機能について理解する

演習 1

4月に7か月で入園したユウキくんは、あおむけに寝かせてもどうしても左を見てしまい、真上を向いてくれません。お兄ちゃんのユウキくんが入退院を繰り返していたため四六時中お母さんに背負われ、左を向く癖がついてしまったようです。握るおもちゃなどで誘っても目は虚ろで、あまり反応がありません。ユウキくんの担当になったA先生は指導計画を立てようとしています。あなたならどんな働きかけや保育の工夫を考えますか。

演習 2

乳児保育がどんな役割を果たしているのか、またなぜ必要なのか、自分の考えを書き出し、話し合ってみましょう。

メモ

🍵 保育と乳児保育の役割

保育とは、人間の大人が、人間の子どもを、人間らしく育てていく営みです。人間らしく育てていくというのは、他者と協働しつつ生きる力と、豊かな感性・知性や人間性をもった人間に育てていくということです。保育所における保育は、「養護」と「教育」の一体的展開という形で行われます。

「養護」とは、「子どもの生命の保持及び情緒の安定を図るために保育士等が行う援助や関わり」（保育所保育指針（以下、保育指針）第1章2（1））であり、「教育」とは、生涯にわたる生きる力を培うために行われる意図的・計画的なはたらきかけであって、乳幼児期の保育では、それらは完全に切り離されるものではなく、一体となって展開されます。例えば、不快な状態にいる乳児に対し、おむつ交換や空腹を満たすようなはたらきかけ、情緒が安定するようなはたらきかけを行って、快適で落ち着いた生活が送れるようになると、乳児は保育士を安全基地（43頁参照）として依拠しながら、安心して目の前のおもちゃに手を伸ばし、積極的に遊ぶことができるようになるでしょう。そのことは、乳児が人からのほたらきかけを受け入れつつ、主体的にまわりの人や物へはたらきかける力を育てていく土台にもなるのです。

演習1のユウキくんに対しても、いろいろなかかわり方が考えられます。一方に頭を向ける癖がついているようならもう一方からガラガラなど呼びかけてみたり、うつ伏せで遊ぶ時間を増やしたりといった、応答的かかわりを通して意欲を引き出すかかわりも必要ですし、担当保育士との間で情緒的な絆を形成し、安定した生活をつくるなどの働きかけも必要です。信頼関係で結ばれた担当保育士が視界の範囲内にいることで、ユウキくんは安心して周りの世界に関心を広げていくことができるでしょう。また、保護者と相談し、これまでのユウキくんの生活を振り返りながら一緒に考えていくことも重要です。ある保育士はこの演習で、お迎えの時に、必ずユウキくんがその日に楽しく遊んでいた様子を具体的に伝えていきたいと答えました。そのかかわりも、保護者のユウキくんへの関心や働きかけを引き出すうえで有効でしょう。保護者がわが子の発達に関心をもつようになると、子どもの育ちを保育士とともに喜びあうことができ、一層子どもの発達が促される可能性が高くなるからです。

🍵 用語

養護

保育指針では、「養護」に関するねらいと内容が、「生命の保持」と「情緒の安定」の二つに分けられて、明記されている。ねらいについて、「生命の保持」に関しては「快適に生活できる」こと、「健康で安全に過ごせる」こと、「生理的欲求が十分満たされる」こと、「健康増進が積極的に図られる」ことなど。「情緒の安定」に関しては「安定感をもって過ごせる」こと、「くつろいで共に過ごし癒される」こと、「自分の気持ちを安心して表す」こと、「主体として受け止められ、主体として育ち、自分を肯定する気持ちが育まれていくようにする」こと等について明記されている。

メモ

Q 参照

保育所保育指針第
1章—1—(1)保育
所の役割

用語

発達心理学

発達心理学とは、人生のすべての時期の行動や心理を発達の観点で研究する学問のことである。発達心理学事典（日本発達心理学会、2013）によれば、「医学的には生後1年までの期間」を乳児期という。また、一般的に知られているピアジェ（Piaget,J.）の理論によれば、乳児期は、生後1歳半頃までであり、幼児期は1歳半から7歳頃までを指すとされる。本章では、直立二足歩行や有意義語の表出、道具の使用などがどの子にもみられるようになる1歳半以降を発達心理学でいう幼児期とし、出生からそれまでの時期を乳児期とした。

🍵 乳児保育とは

保育所は、「保育を必要とする子どもの保育を行い、その健全な心身の発達を図ることを目的とする児童福祉施設であり、入所する子どもの最善の利益を考慮し、その福祉を積極的に増進することに最もふさわしい生活の場」（保育指針第1章1(1)ア）です。ですから、入所する子どもの発達の状態を把握し、保育のあり方を見直す役割が保育士には常に求められます。特に、乳児期は特定の人との安定した関係を基盤にして、周りの世界への関心を高めていく時期です。あやされて声を出して笑ったりする一方、かわりが少ないと全身の動きや表情が乏しくなったりします。そのため、保護者と綿密に連携を取りながら、保護者の養育力を支え、支援することが必要なのです。

つまり、乳児保育は、①乳児の生活を整え、遊びを充実させ、心身の発達を促す役割、②保護者の子育てを支え、支援していく役割、③地域の子育てに対して専門的知識や技術を提供する社会的役割が期待されています。

ところで、ここで言葉の定義を明確にしておきましょう。保育指針では、第2章保育の内容が、「乳児」「1歳以上3歳未満児」「3歳以上児」に分けて記述されており、「乳児」は0歳代の子どものことを指しています。児童福祉法における「乳児」は満1歳に満たない者となっており、**発達心理学**上の区分でも、生まれてから直立2足歩行が確立し、言葉を発し始める1歳前半くらいまでを「乳児」と呼ぶことが一般的です。しかし、保育所や認定こども園のクラス編成では、0歳児クラスから2歳児クラスまでの3歳未満児クラスについて、**乳児クラス**と呼ぶことが多いのも事実です。そこで本巻では、テーマとなっている乳児保育の守備範囲について、特に断りがなければ0歳児保育だけでなく3歳未満児保育まで含めることとします。それらを踏まえて、本章では、まずその意義を明らかにしていきます。

🍵 子どもの成長・発達と乳児保育の役割

発達過程の最も初期にあたる0歳代は、視覚・聴覚・嗅覚・触覚・味覚という五感や、這う・座る・歩くなどの運動機能が著しく発達し、特定の大人との間に

メモ

情緒的な絆が形成されるとともに、人に対する基本的信頼感が育つ時期です。保育指針第2章1(2)では、乳児期の発達の特徴を踏まえ、生活や遊びが充実することを通して身体的・社会的・精神的発達の基盤を培うために、以下の三つの視点からねらいと内容が記載されています。

- ア 身体的発達に関する視点「健やかに伸び伸びと育つ」
健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力の基盤を培う。
- イ 社会的発達に関する視点「身近な人と気持ちが通じ合う」
受容的・応答的な関わりの中で、何かを伝えようとする意欲や身近な大人との信頼関係を育て、人と関わる力の基盤を培う。
- ウ 精神的発達に関する視点「身近なものと関わり感性が育つ」
身近な環境に興味や好奇心をもって関わり、感じたことや考えたことを表現する力の基盤を培う。

また、0歳代から1歳代、2歳代に入ってくると、歩く、走る、跳ぶなどの運動機能が発達し、身辺自立も進んで、自分でできることが増えていきます。自我が芽生え、なんでも自分でやりたい気持ちが育ってきて自己主張が強くなる一方、言葉での表現が未熟なために友だちとトラブルになることもあります。1人ひとりの子どもに応じた発達の援助が適切に行われることが求められます。

そこで、保育指針では、この1歳以上3歳未満児については、その発達の特徴を踏まえ、上記の乳児保育の三つの視点と関連させつつ、「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の五つの領域によって保育内容が示されています。こうして整えられ関連づけられた乳児保育は、3歳未満児の生活と遊びを充実させることを通して、心身の発達を促す役割を果たしていきます（図1-1、図1-2）。

例えば、1歳児同士のおもちゃの取り合いで、B子ちゃんに噛みついてしまったA子ちゃんに、あなたはどんなにかかわりをしますか？

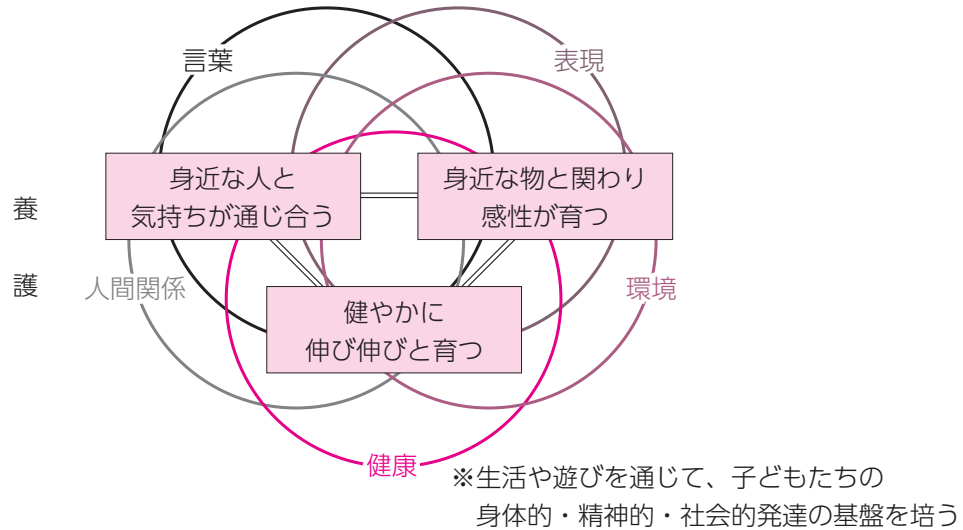
「発達に応じた保育内容」や「適切なかかわり」は、次章以降で学びますが、この事例でいえば、いきなり噛みつかれたB子ちゃんの悲しい気持ちを慰撫し手当てをしながらも、噛みついてしまったA子ちゃんが何に苛立っていたのか、何を要求したかったのかを聴き取り、代弁しながら、B子ちゃんと一緒に伝えていけるようにすることが大事でしょう。思い通りにいかなくて子どもが感情を表出

用語

乳児クラス

4月の0歳児クラスには、産休明けの赤ちゃんから1歳近い子どもまでが入所している可能性がある。年度末の3月になると、2か月の子は1歳1か月に、1歳近い子は1歳11か月になる。また新たに産休明けの赤ちゃんが入所する場合もあるので、結果的に0歳児クラスには、2か月すぎからもうすぐ2歳になる子どもまで、幅広い月齢層の子どもが在籍するということになる。

メモ



出典：厚生労働省雇用均等・児童家庭局「保育所保育指針の改定について」、2017年

図 1-1 乳児の「ねらい」と「内容」における 3 つの視点

した時、受容しながら受け止める養護的かわりは何よりも大事ですが、感情をコントロールすることができるようになるためにも、自分で考えて立ち直る経験を保育士の支えを得ながら積み重ねていく教育的かわりも重要です。

🍵 乳児保育の機能

前頁のA子ちゃんのような噛み付きの事例を保護者に伝える際に理解しておきたいことは、保護者は初めてわが子の思いがけない行動に遭遇してショックを受けることもあるということです。特に噛みついてしまった子どもの保護者は、表情には出さなくても、自分の子育てはこれでよかったのかと戸惑ったり悩んだりする人が多いはずです。そうした場面では、クラスの子どもたちの発達状況への共通理解を保護者とともに図りながら、保育所として行うべき取り組みや保育の見直しを行うことを伝えていきたいものです。そして、わが子がきちんと保育士に見守られ育てられているという安心感を保護者がもてるようにしていきましょう。

メモ

乳児保育（3 歳未満児保育）の役割

乳児保育の内容
（保育指針）

1 歳以上 3 歳未満児の保育の内容
（保育指針）

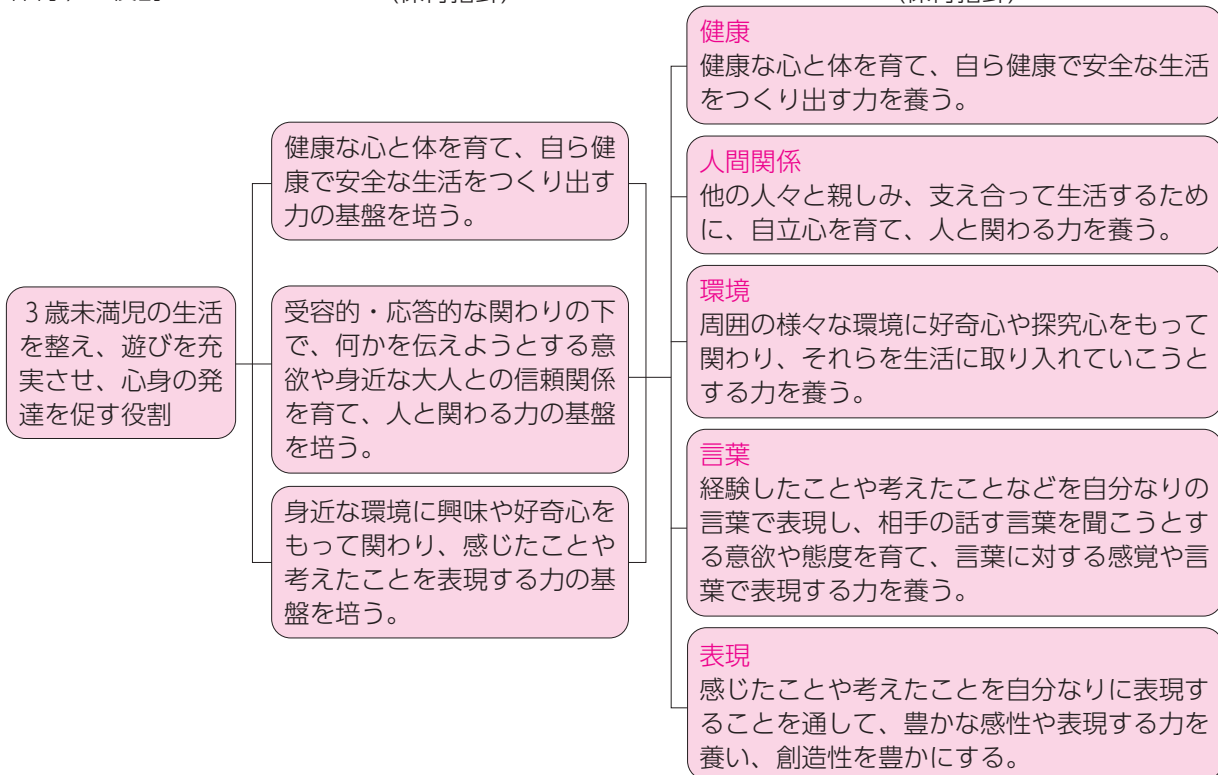


図 1-2 乳児保育（3 歳未満児保育）の役割と保育指針における保育内容との関連

（保育指針を元に筆者作成）

乳児保育は、初めての子どもを育て始めて数年に満たない保護者と向き合っ、ともに子育てをするという特性を持っています。ですから、子育ての問題や課題について保護者の気持ちに寄り添いながら、保護者を支えることが重要です。子どもへの愛情や成長を喜ぶ気持ちを共感し合うこと、困っていることを聞いて受け止め考え合うことを大事にしていきましょう。

保育所は、保護者にとっては、多様な個性をもった他者と出会う場です。わが子の姿に戸惑いながら子育てをしている保護者は、さまざまな個性や価値観をもった親子や保育者に出会って安心したり勇気づけられたりするでしょう。子どもの育ちと一緒に喜んでくれる保育者と出会うこと、同じ子育ての悩みを共有し

メモ

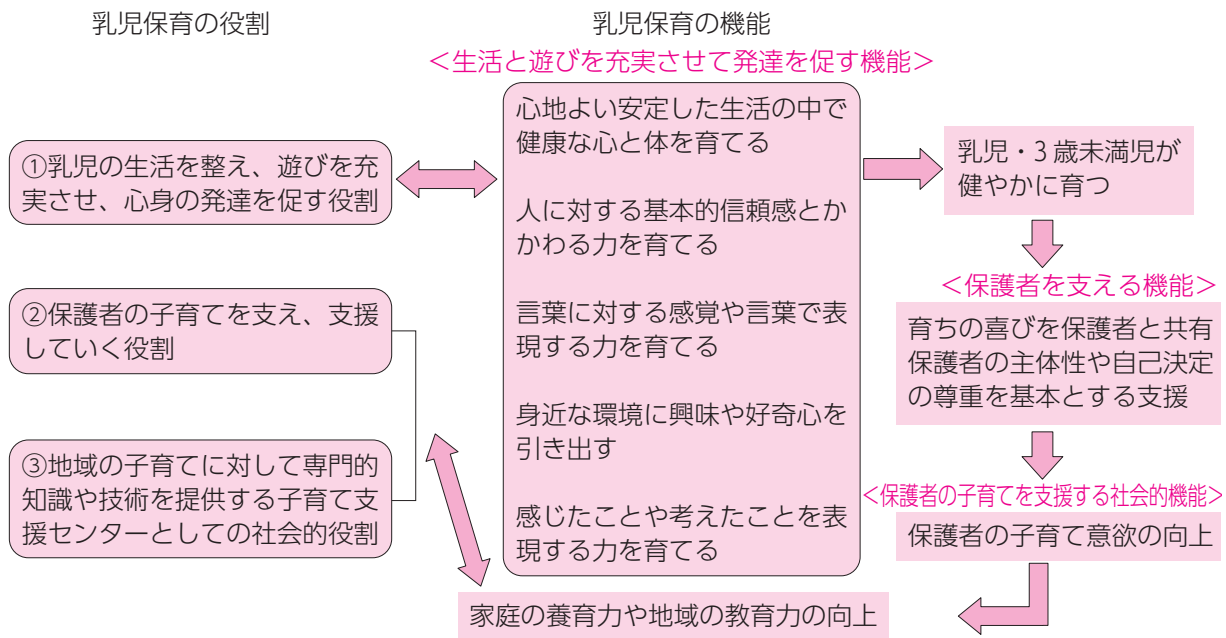


図 1-3 乳児保育の役割と三つの機能

用語

子育て支援センター

高度経済成長期、父親の長時間労働のため日中の養育を母親が一手に担い育児不安になる現象が指摘され、各地の保育所のなかには、地域の子育てセンターとして、親子のための事業（子育て相談や限定的な園庭開放や遊びの提供等）を始めるところもあった。その後、国が策定したエンゼルプランによる「緊急保育対策等5か年事業」（1995～1999）で初めて「地域子育て支援センター」の設置目標数値が設けられた。現在は「地域子育て支援拠点事業」として整備され（平成26年5月29日雇児発0529第18号）、市町村が実施主体となってい

合える保護者と出会うこと、そして何より、専門的知識や技術をもった質の高い保育者と出会うことは、保護者の子育て意欲を向上させ、子育て意識を変化させます。またそれは、地域全体の養育力の向上にも繋がり、保護者の子育て観や人生観にも影響を与えるのではないのでしょうか。

こうした保護者への支援も含めた役割を果たすために、乳児保育では次の三つの機能をもっています。①生活と遊びを充実させて発達を促す機能は、保育の中心的機能ですが、そのことで乳児が健やかに豊かに育つことは、保護者の喜びとなり、それを保育士が共有しながら「保護者の主体性や自己決定の尊重を基本とする支援」を行うことで、保護者の子育て意欲は向上していきます。そして、まさに②保護者を支える機能が働くことで、保護者は安心感・安定感をもって子育てができます。さらに地域の専門機関と連携をとりながら、③地域の子育て支援センターとしての社会的機能が働くと、家庭の養育力や地域全体の教育力が向上します。これらは保育に関する専門性を有する保育士が行うことで一層発揮されるのです（図1-3）。

メモ

》 》 まとめの演習



児童福祉法第1条で児童がもつ権利について理解したうえで、保育指針の第1章1(1)を読み、「保育所の役割」についてまとめましょう。また、それを勤務する園の保育士等にどのように伝えますか。

る。事業内容は、「乳幼児及び保護者が相互に交流を行う場所を開設し、子育てについての相談、情報の提供、助言その他の援助を行うこと」である。

メモ
